

13 第二部商經学科教養科目  
(教養一般)



授業科目	人間と文化		担当者	岡村俊彦 他7名				
	[履修年次]	指定なし	授業外対応					
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大3学科の教員7名が、それぞれの分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を、異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に、多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。(9/11,9/12,9/13,9/17,9/18,9/19,9/20の集中講義。県内大学等のコーディネート科目であり、他大学等の学生も受講する)</p> <p>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし、プリント資料を準備します。</p> <p>(2) 授業中、必要に応じて指示します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 日本語と英語のポキャブラリーについて(1) (遠峯)</p> <p>第2回 日本語と英語のポキャブラリーについて(2) (遠峯)</p> <p>第3回 企業・政府・文化(1) (船津)</p> <p>第4回 企業・政府・文化(2) (船津)</p> <p>第5回 技術と経済の歴史 (山口)</p> <p>第6回 現代社会における技術と経済 (山口)</p> <p>第7回 スキタイの文化(1):歴史 (土肥)</p> <p>第8回 スキタイの文化(2):黄金の文化 (土肥)</p> <p>第9回 (1)アートと文化 (北)</p> <p>第10回 (2)デザインと文化 (北)</p> <p>第11回 日本の学校給食と食育:学校給食の歴史より (中西)</p> <p>第12回 鹿児島県の学校給食と食文化:郷土料理に魅せられて (中西)</p> <p>第13回 若者と選挙(1):18歳選挙権から考える (山本)</p> <p>第14回 若者と選挙(2):インターネット選挙から考える (山本)</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポートの提出(85%)と毎回の授業の感想・意見等(15%)で評価します。							
実務経験について	なし							

授業科目	日本の歴史		担当者	永山 修一				
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応					
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原始～中世前期の「日本の歴史」</p> <p>【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ、十分に意識しながら、南九州から南島に生活した人々の姿を、なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。</p> <p>【到達目標】身近な歴史に関心を持つことができ、歴史的な思考力について理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業時に配布(プリント)</p> <p>(2) 『鹿児島県の歴史』(山川出版社,1999年)原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 歴史の見方</p> <p>第2回 資料と史料(文献)</p> <p>第3回 資料と史料(遺物)</p> <p>第4回 資料と史料(遺構)</p> <p>第5回 旧石器時代・縄文時代</p> <p>第6回 弥生時代</p> <p>第7回 古墳時代</p> <p>第8回 神話と伝承</p> <p>第9回 隼人と律令制度</p> <p>第10回 薩摩国正税帳を読む</p> <p>第11回 平安時代の薩摩・大隅</p> <p>第12回 奄美諸島の歴史</p> <p>第13回 キカイガシマをめぐる</p> <p>第14回 鹿児島県の芸能</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業時毎の小レポート(60%) レポート(40%)							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学・近代		担当者	竹本 寛秋			
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	[学期]	前期 [単位]	2 単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代の小説を読む</p> <p>【概要】 日本近代の小説を、様々な観点から読み解きます。様々な観点から小説を読むことで、小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、現代に生きる私達自身の問題として考える能力を身につけます。 ※対象とする小説作品は変更の可能性がある。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>						
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第 3 回 結核の時代と文学</p> <p>第 4 回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第 5 回 科学技術と文学</p> <p>第 6 回 中島敦「マリヤン」</p> <p>第 7 回 日本の国境と日本文学</p> <p>第 8 回 前半のまとめ</p> <p>第 9 回 萩原朔太郎「猫町」</p> <p>第 10 回 心理学と文学</p> <p>第 11 回 宮澤賢治「猫の事務所」</p> <p>第 12 回 原稿、草稿と文学</p> <p>第 13 回 太宰治「葉桜と魔笛」</p> <p>第 14 回 「語り」からテキストを読み解く</p> <p>第 15 回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。						
成績評価の方法	毎回のミニレポート (40%)、レポート (60%)						
実務経験について	なし						

授業科目	こころの科学		担当者	飯田 都			
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	適宜対応(要予約)			
	[学期]	前期 [単位]	2 単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】科学的学問としての心理学について理解し、その方法論や心理学的知見の応用について知識を深める。</p> <p>【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。</p> <p>【到達目標】①現代社会におけるこころの問題を理解するために、実証科学としての心理学に対する理解を深める。②身近な問題としてのこころの健康やその予防・維持に関する知識を身につける。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大井晴策(監)(2012). プロが教える心理学のすべてがわかる本 ナツメ社</p> <p>(2) 北尾倫彦(1997).グラフィック心理学 サイエンス社</p> <p>無藤 隆・森 敏昭・遠藤 由美・玉瀬 耕治(2018).心理学 新版 有斐閣</p>						
授業スケジュール	<p>第 1 回 第 1 回オリエンテーション</p> <p>第 2 回 第 2 回 心理学とは：科学としての心理学</p> <p>第 3 回 第 3 回 人は世界をどうとらえるか：ゲシュタルト心理学,錯覚の心理学</p> <p>第 4 回 第 4 回 発達とは：遺伝と環境</p> <p>第 5 回 第 5 回 感情はどこからくるのか：感情の心理学</p> <p>第 6 回 第 6 回 学習とは：行動主義,学習の心理学</p> <p>第 7 回 第 7 回 やる気はどこから生まれるのか：動機づけ,学習性無力感</p> <p>第 8 回 第 8 回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か</p> <p>第 9 回 第 9 回 性格：血液型と認知バイアス</p> <p>第 10 回 第 10 回 ストレス：心のトラブルを考える</p> <p>第 11 回 第 11 回 精神分析：無意識の発見と心の病</p> <p>第 12 回 第 12 回 心理療法</p> <p>第 13 回 第 13 回 社会と心理</p> <p>第 14 回 第 14 回 犯罪と心理</p> <p>第 15 回 第 15 回 ポジティブ心理学</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	授業内課題 (50%) ,試験 (50%)						
実務経験について	なし						

授業科目	比較文化		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	メール対応 (chenyue0205@yahoo.co.jp)
	[学期]	後期	[単位]	2 単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！）</p> <p>【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。会話パターンの日中相違、接し方の中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、相違の背後にある文化価値観を浮き彫りにし、最終レポートにまとめる。</p> <p>【到達目標】1 中国社会を知る。2 中国人を知る。3 日本人と中国人との相違を知る。4 「日本人」に関して再度認識する</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 陳 躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年）</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 空気を読まない中国人と空気を読む日本人</p> <p>第 2 回 初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人</p> <p>第 3 回 店員が神様である中国と客が神様である日本</p> <p>第 4 回 イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人</p> <p>第 5 回 家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人</p> <p>第 6 回 向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人</p> <p>第 7 回 なれなれしい中国人とよそよそしい日本人</p> <p>第 8 回 中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」</p> <p>第 9 回 「かまわない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人</p> <p>第 10 回 無責任なことをかかると言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人</p> <p>第 11 回 その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人</p> <p>第 12 回 喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人</p> <p>第 13 回 核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人</p> <p>第 14 回 傍若無人な中国人と人の目ばかり気にする日本人</p> <p>第 15 回 相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。</p>			
成績評価の方法	<p>授業への参加態度 (60%)、レポート (40%)。</p>			
実務経験について	<p>なし。</p>			

授業科目	アジア文化論		担当者	カムチャイ・ライサミ
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2 単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アジア文化のダイナミクス</p> <p>アジア文化は多様性に富んでいる。文化の根源とは何か。アジア文化の起源、変容、比較を明らかにする。</p> <p>【概要】アジア文化は世界文化の一大拠点を成している。アジアの自然と宗教がどのようにアジア文化を育み、現代の政治・経済・社会にどのように影響を与えるか、実例を交えながら講義する。</p> <p>【到達目標】アジアの自然と主要宗教を展望し、アジア文化の多様性が理解できること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じてその都度指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 アジア文化の多様性</p> <p>第 2 回 文化と自然・風土</p> <p>第 3 回 文化と生活</p> <p>第 4 回 文化と経済</p> <p>第 5 回 文化と宗教・政治</p> <p>第 6 回 儒教・道教の文化</p> <p>第 7 回 仏教文化</p> <p>第 8 回 イスラム教文化</p> <p>第 9 回 インドの宗教文化</p> <p>第 10 回 アジア比較文化Ⅰ：日本と韓国</p> <p>第 11 回 アジア比較文化Ⅱ：中国と台湾</p> <p>第 12 回 アジア比較文化Ⅲ：香港とシンガポール</p> <p>第 13 回 アジア比較文化Ⅳ：タイとフィリピン</p> <p>第 14 回 アジア比較文化Ⅴ：マレーシアとインドネシア</p> <p>第 15 回 アジア比較文化Ⅵ：ベトナムとミャンマー</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>授業前後に必ず合計で 4 時間程度の予習・復習を行うこと。</p>			
成績評価の方法	<p>期末筆記試験 (100%)</p>			
実務経験について	<p>なし。</p>			

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法 (令和6年度版)』、有斐閣</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 憲法概論 ・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</p> <p>第 2 回 基本権総論 ・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</p> <p>第 3 回 幸福追求権 ・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</p> <p>第 4 回 精神的自由権(1) ・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</p> <p>第 5 回 精神的自由権(2) ・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</p> <p>第 6 回 精神的自由権(3) ・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について</p> <p>第 7 回 経済的自由権 ・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</p> <p>第 8 回 受益権 ・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</p> <p>第 9 回 社会権(1) ・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</p> <p>第 10 回 社会権(2) ・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</p> <p>第 11 回 国会(1) ・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</p> <p>第 12 回 国会(2) ・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</p> <p>第 13 回 内閣 ・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</p> <p>第 14 回 裁判所 ・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</p> <p>第 15 回 財政 ・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。			
実務経験について	なし			

授業科目	キャリアデザイン		担当者	担当教員
	[履修年次] 2年		授業外対応	
	[学期] 通年	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ◆5月15日(水)(特設時間を利用) 第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは</p> <p>◆6月12日(水)(特設時間を利用) 第2回 自己分析 志望動機</p> <p>◆7月10日(水)(特設時間を利用) 第3回 企業研究の必要性とそのやり方</p> <p>◆9月18日(水)3限 第4回 企業が求める人材</p> <p>◆9月18日(水)4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ</p> <p>◆10月16日(水)(特設時間を利用) 第6回 働いて「困った」への対応方法</p> <p>◆11月6日(水)(特設時間を利用) 第7回 これから働くあなたへのメッセージ</p> <p>◆12月18日(水)(特設時間を利用) 第8回 プロフェッショナルになろう (パネルディスカッション)</p> <p>※ 5年度の講師については適宜掲示する。</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出 (100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	ライフプランニング		担当者	瀬尾 由美子	
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応	講義終了後	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕 選択
					〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】将来の生活設計に必要な「ライフプランニングの考え方」を身につける</p> <p>【概要】「ライフプランニング」とはこれから先の人生をどのように過すのかを思い描き、実現するための方法を考え、計画を立てることである。「ライフプランニング」の考え方を学ぶことで、経済的に自立し、安心して将来の生活を過ごすことができるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプランニングに必要な金融や経済に関する基礎知識を身につける。</li> <li>・金融商品や各種サービスの選択をする際に適切な判断ができるようになる。</li> </ul>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「大学生のための人生とお金の知恵」 金融広報中央委員会（無償提供）、プリント</p> <p>(2) 「これであなともひとり立ち」 金融広報中央委員会（無償提供）</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ライフプランニング（1）：ライフプランニングの必要性和考え方</p> <p>第2回 ライフプランニング（2）：これからの人生のライフデザインを思い描く</p> <p>第3回 ライフプランニング（3）：ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性</p> <p>第4回 社会保険制度（1）：社会保険制度の概要と基礎知識</p> <p>第5回 社会保険制度（2）：公的年金制度の概要と基礎知識</p> <p>第6回 社会保険制度（3）：セーフティネットを理解する</p> <p>第7回 所得税：所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方</p> <p>第8回 貯蓄と投資（1）：消費と投資の考え方の違い</p> <p>第9回 貯蓄と投資（2）：貯蓄と運用の考え方の違い</p> <p>第10回 貯蓄と投資（3）：運用する際の基礎知識</p> <p>第11回 貯蓄と投資（4）：将来に備えるために役立つ制度</p> <p>第12回 貯蓄と投資（5）：金利と法律の基礎知識</p> <p>第13回 保険（1）：生命保険の基礎知識と考え方</p> <p>第14回 保険（2）：損害保険の基礎知識と考え方</p> <p>第15回 まとめ：第1回から第14回までのまとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	講義中ごとの感想（50%） 期末試験（50%）				
実務経験について	2010年からライフプランセミナー講師、2013年からFP3級資格取得講座講師、2016年からFP2級資格取得講座講師				

授業科目	環境問題		担当者	井村隆介・榮村奈緒子・浅海真弓・岡村雄輝	
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕 選択
					〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を異なる視点から考える</p> <p>【概要】自然史（井村）、森林科学（榮村）、生活科学（浅海）、経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える。</p> <p>【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 國部克彦（編集）、神戸CSR研究会（編集）『CSRの基礎』、中央経済社</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第2回 鹿児島島の自然史（1）鹿児島島と気候変動</p> <p>第3回 鹿児島島の自然史（2）鹿児島島の地震と火山</p> <p>第4回 鹿児島島の自然史（3）鹿児島島の植生史</p> <p>第5回 鹿児島島の自然史（4）鹿児島島の自然と人</p> <p>第6回 森林科学（1）：動物と植物の相互作用【遠隔授業】</p> <p>第7回 森林科学（2）：獣害【遠隔授業】</p> <p>第8回 森林科学（3）：外来種【遠隔授業】</p> <p>第9回 生活科学（1）：衣生活と環境問題（衣服廃棄・リサイクルの現状と課題）</p> <p>第10回 生活科学（2）：食生活と環境問題（食品ロスの現状と課題）</p> <p>第11回 生活科学（3）：環境に配慮した生活（私たちの生活の中でできる取り組み）</p> <p>第12回 経済社会（1）：企業と公害（1）</p> <p>第13回 経済社会（2）：企業と公害（2）</p> <p>第14回 経済社会（3）：企業と地球環境（1）</p> <p>第15回 経済社会（4）：企業と地球環境（2）</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	各教員の課題（20～30点満点）×4＝100点とする				
実務経験について	なし				